

文字を語る

本館

白鶴コレクションにみる
漢字造形の変遷

延

寺城乃新晋王像
七尺後蜀賓僧至
先在女上屢放光顯
太武太延元年沙門
望御谷山礼之日不
見若形相 具天下

重要文化財 「画図諳文」
中国・唐時代 部分
展示期間：9/25～11/4



「大」字(「象文宙」身内底)

福

白淨徳有二子一名淨蔵二名淨
有大神力福德智慧久修菩薩
「智檀波羅蜜尸羅波羅蜜提婆
蜜禪波羅蜜般若波羅蜜
喜捨乃至三十七品助道
又得菩薩淨三昧日星宿
淨色三昧淨明三昧長壽

「寿」字
「金剛手壽字文大鉢」
中国・明時代 部分

重要文化財 「法華綵(色紙綵)」巻第八
日本・平安時代 部分
展示期間：9/25～11/4



重要文化財 「象文宙(臣辰宙)」
中国・西周時代



「籀色紙/岡寺切(順集)」 藤原定信筆
日本・平安時代 部分
展示期間：9/25～10/20



絨毯

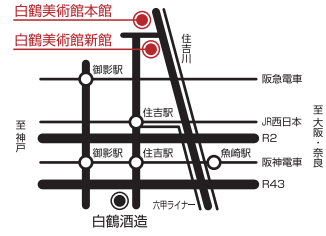
描かれた図形と文字

新館

2019年
9月25日(水)～12月8日(日)

休館日	月曜日 但し10月14日(祝・月)、11月4日(振替・月)は開館、 10月15日(火)、11月5日(火)を休館
開館時間	午前10時～午後4時30分(但し入館は午後4時まで)
入館料	大人：800円 65歳以上・大学・高校生：500円 中・小学生：250円 (大人・大学・高・中・小学生団体20名以上は2割引)
催し	講演会 10月13日(日)、11月3日(祝・日) 新館レクチャー 11月24日(日) 美術に親しむ会 11月23日(祝・土) アートトーク(スライド解説) 9月29日(日)、10月14日(祝・月)・27日(日)、11月4日(振替・月)・17日(日)、12月8日(日) ワークショップ 11月10日・17日・24日、12月1日の各日曜日

Mochtashem Kashan, Central Persia (モフタシャム カジャン、ペルシア中央部) 1900年ごろ 部分
Megri, West Anatolia (メグリ、アナトリア西部) 1850年ごろ 部分



- 阪神御影駅、JR住吉駅から市バス38系統渦森台行「白鶴美術館前」下車
- 阪急御影駅から北東約1km(徒歩15分)
- 阪神高速道路3号神戸線、大阪方面：魚崎出口から1.5km 姫路・明石方面：摩耶出口から6km
- 無料駐車場あり(大型バスも可)

公益財団法人
白鶴美術館
HAKUTSURU FINE ART MUSEUM

(問い合わせ先)
〒658-0063 神戸市東灘区住吉山手6-1-1
TEL.FAX.078-851-6001
http://www.hakutsuru-museum.org/

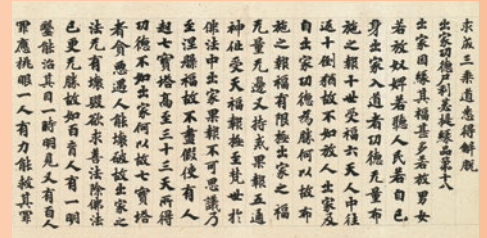
文字を語る — 白鶴コレクションにみる漢字造形の変遷 — 本館

文字。それは時空の垣根を越えて意思伝達を可能とする人類史上最も重要な発明の一つ。中でも漢字は今日に至るまで連綿と使用され続けてきた唯一の古代文字ですが、出発点に近い甲骨文や金文に見出せる象形的な字姿が、歴史を闊る中で変容を遂げ、やがて篆書、隸書、楷書などの書体を生み出すに至ります。また漢字を受け入れた日本では仮名を派生させました。その豊かな書体が更に意匠化され、絵画や器物と融合するなど多様な広がりを見せてきました。漢字は、一字に複数の情報を盛り込むため、書される場（環境、支持体）に応じた造形を生むことを可能にし、更に既存の造形同士が作用し合ったのです。その流転、循環の様子はあたかも中国の五行説に通じる根源的な自然観を想起させます。

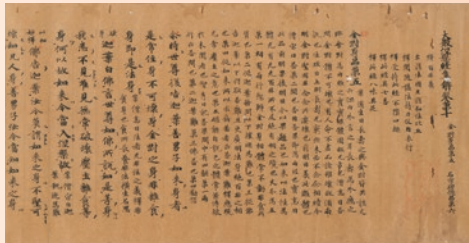
当白鶴美術館には、種々の漢字の姿を示す優品が数多く所蔵されています。悠久の中国史を体現する約3000年前の金文を鑄込む青銅器、国宝「賢愚経」・「大般涅槃経集解」に代表される荘厳な仏語を写す奈良時代の経巻、平安時代の雅な歌を仮名交りで詠む色紙、意匠化した文字によって吉祥を讃える陶磁器などです。本展覧会では、こうした作品を通して、主に書される場に応じた漢字造形の移ろいを辿り、豊かな広がりを見せる文字世界を提示します。



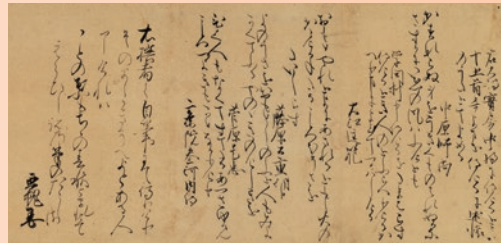
「四弁花文帯卣」 中国・殷(商)時代



国宝 「賢愚経」 甲巻 日本・奈良時代
展示期間：9/25～11/4 (11/6～12/8 乙巻を展示)



国宝 「大般涅槃経集解」 巻第十 日本・奈良時代
展示期間：9/25～11/4 (11/6～12/8 巻第一を展示)



「日野切(千載集)」 藤原俊成筆 日本・平安時代
展示期間：9/25～10/20



「三彩詩文枕」 中国・金時代

絨毯 — 描かれた図形と文字 — 新館

織文様には反復するデザインが多くみられます。それは画面を思いのままに彩る絵筆とは異なり、キャンバス自身を作りつつモチーフを描くという、不自由な造形が影響しています。幾度となく繰り返される動作に相応しい表現だともいえます。

織物のひとつである絨毯も、下地を作りながら、図となるパイル糸を織り込んでいきます。ただ、絨毯の場合、パイル糸は下地そのものではなく、経糸に結びつけ、またそれごとに切られるため、図を描く自由度が比較的に高い構造です。そうした造形において、織り手は花や花瓶、鳥や羊、また日常生活の道具など、身近なものを表してきました。それは作者を取り巻く文化の表象でもあるわけですが、織りの技術やデザインの向上は、正確に反復する文様だけでなく、より絵画的な図像、また筆によって発展してきた流麗な「書」も取り込んでいきます。文字、また書体が伝えるものは、その言語を有する人びとにとっての文化そのものでしょう。

今回は絨毯上に反復される図形や記号化した図像、そして文字の形などに注目してみます。



モフタシャム カシャン、ペルシア中央部
1900年ごろ



メグリ、アナトリア西部
1850年ごろ



ヤジバティール、アナトリア西部
19世紀後期

講演会 日 時：10月13日(日) 午後2時～3時30分
テーマ：「奈良時代の写経の奥深い世界」
講 師：奈良国立博物館企画室長 野尻 忠氏

美術に親しむ会 日 時：11月23日(祝・土) 午後1時～3時
テーマ：「文字の書かれた作品、この一点！」
講 師：当館学芸員

日 時：11月3日(祝・日) 午後2時～3時30分
テーマ：「漢字の世界 — その造形と展開を中心に —」
講 師：龍谷大学国際学部教授 徐 光輝氏

アート・トーク 日 時：9月29日(日)、10月14日(祝・月)・27日(日)、
11月4日(振替・月)・17日(日)、12月8日(日) 午後2時～3時
テーマ：「解説—展示品のみどころ」

新館レクチャー 日 時：11月24日(日) 午後2時～3時30分
テーマ：「詩と絨毯の出会い — ニザーミーの絨毯をヒントに —」
講 師：神戸学院大学非常勤講師 吉田 雄介氏

ワークショップ 日 時：11月10日・17日・24日、12月1日の各日曜日 午後2時～4時
テーマ：「大学生による美術館ワークショップ
— 白鶴美術館定番のミニ屏風作り / じゅうたん文様ブックマーカー作り — など」
指導員：甲南大学学生 / 博物館実習生

ご入館頂きましたら、ワークショップ・イベントのご見学及びご聴講は自由です。
内容詳細につきましては、白鶴美術館(078-851-6001)にお尋ねください。

次回春季展は2020年3月3日(火)から開催の予定です。